

この陰謀論には"元ネタ"があります。
1997年に発行された『裏切られた三人の
天皇』（鹿島昇著、新国民社）、『日本
のいちばん醜い日』（鬼塚英昭著、成甲
書房）など、いずれも明治維新の「謎」
に言及した書籍。

両書が共通して採用するのは「明治天皇
すり替え説」です。



孝明天皇が暗殺され、田布施村（当
時）出身の奇兵隊士・大室寅之祐（おおむろ・とらのすけ）なる人物が"替え玉"として明治
天皇に即位した。と云われている。

孝明天皇の暗殺については、著述家：真山 知幸（まやま ともゆき）氏の HP に以下の
説が掲載されていたので、紹介します。

中納言一橋慶喜が徳川 15 代将軍に就いて僅か半月後の 12 月 25 日、公武合体を主張す
る孝明天皇が 36 才で急死した。これによって倒幕派の勢いは決定的なものとなっていく。

孝明天皇は攘夷論者ではあるが倒幕派ではない。三条実美ら長州、薩摩らと手をくみ倒
幕を策した七卿を朝廷から追い出したぐらいで、彼ら尊王攘夷派にとっては当の天皇が
壁であった。

死因は天然痘ということになっているが、病は快方に向かっていたし、死ぬときは凄ま
じい形相で苦しみ悶え、目、耳、鼻、口、肛門などから噴血して死んだ。天然痘ではこ
のような死に方はしない。崩御の直後から毒殺の噂が流れた。定説では毒を仕込んだの
は岩倉具視の姪にあたる女官で、首謀者は岩倉具視だという説である。

岩倉は文久 2 年にも天皇毒殺未遂の疑いがもたれたことがある。この時岩倉は親幕派で、
幕府から多額の賄賂を受けて、皇妹和宮の徳川家降嫁に反対であった孝明天皇を除こう
としたということである。岩倉はこの事件以来、洛外の岩倉村に蟄居の身であったが、
その間に何故か武力倒幕派に豹変した。長州、薩摩と接触を深め、宮中の反幕派公卿を
掌中におさめて、いつのまにか隠然たる黒幕にのしあがっていたと云われる。

わずか 150 石の平公卿とは思われぬ凄腕で、何をやるか分からないようなところがあっ
たと云う。そして孝明天皇の死後、追放されていた倒幕派の公卿たちがいっせいに宮廷
に復活した。

・毒殺説もある「孝明天皇」が幕末に残した衝撃は大きかった。
慶喜への将軍宣下の直後に死亡したのである。

慶応2年12月5日（1867年1月10日）、孝明天皇が二条城で将軍宣下を行い、徳川慶喜は15代将軍に就任した。

これまで再三、将軍就任を拒んできた慶喜に決断させたのは、やはり孝明天皇である。慶応2年11月27日に孝明天皇が将軍宣下の内勅を慶喜に下している。慶喜も孝明天皇に言われると、無碍にはできない。また、諸外国に約束した兵庫開港の期日が慶応3年12月7日と約1年後に迫る。切迫する外交問題も、慶喜に将軍就任を決意させた。そんな中、同年12月25日、孝明天皇が突然崩御してしまう。慶喜が将軍宣下を受けてから、わずか20日後のことである。（写真 左：孝明天皇 右：岩倉具視）



突然の死によって暗殺説がささやかれた孝明天皇（左）とその主犯と噂された岩倉具視（左写真：近現代PL／アフロ、右写真提供：akg-images／アフロ）

死因は天然痘と診断されたが、毒殺説も根強い。というのも、孝明天皇の死によって、その子である明治天皇が14歳の若さで践祚（せんそ）することになった。薩摩藩をはじめとする倒幕派は、宮廷クーデターに成功。倒幕へと弾みをつけることとなった。

一時期は緩解（かんかい）に向かっていた症状が不自然に急変したことも

あり、「倒幕派が孝明天皇を葬ったのではないか」とうわさが立つことになった。孝明天皇の病状は、どのように変化したのだろうか。

『孝明天皇紀』によると、慶応2年12月15日から孝明天皇は高熱を発した。その翌日に、吹き出物が出てきたため、17日に待医たちが痘瘡（とうそう）だと診断を下す。18日の夜には、2、3カ所で痘の色が紫色になったので、塗り薬をつけ、漢方の「拔毒散」を服用している。19日には、発疹（ほっしん）が水泡状に腫れあがってきた。夜は安眠できなかったものの、その後は順調な経過をたどる。23日には、発疹からの膿も出切った。医師たちも「明日からは、かさぶたができるだろう」と安堵していた。

その快方ぶりは食事にも表れる。病に伏せた当初は重湯くらいしか食べられなかったが、発疹が緩解（かんかい）に向かった23日には、ほぼ通常の食事をとれるまでに回復した。「今朝より至極静かで落ち着いたご様子」23日の食事メモには、そう記載されている。待医たちのほっとした様子がありありと伝わってくる。

•不自然な死により、ささやかれた「毒殺説」

しかし、24日の夕方から事態が急変する。下痢と嘔吐の発作に苦しむようになり、脈も微かなものに変化していく。そして四肢が冷たくなり、25日に孝明天皇は突然の死を迎えることになった。大納言の中山忠能ただやすは、娘の慶子が孝明天皇の後宮に入っていたため、天皇の病状について娘から情報を得ていた。

『中山忠能ただやす日記』には、孝明天皇の最期について、次のように書かれている。

「二十五日後は御九穴より御脱血」「九穴」とは、両目、両耳、口、鼻腔、尿道口、肛門のことで、そのすべての穴から出血したという。すさまじい最期だったことがわかる。回復傾向にあっただけに、病状が急変して死亡にまで至ったことに、周囲は騒然とする。その不自然さから、まことしやかに「毒殺説」がささやかれることとなった。

慶応3年1月5日、横浜から兵庫へと赴いたイギリスの外交官アーネスト・サトウは、プリンセス・ロイヤル号の甲板で、日本の貿易商人から「孝明天皇が崩御した」という知らせを受けた。そのときのことを次のように回想している。

「天皇は天然痘にかかって死んだということだが、数年後に、その間の消息に通じている一日本人が私に確言したところによると、毒殺されたのだという」

当時から、孝明天皇の死には暗殺がうわさされていたことがわかる。先に紹介した『中山忠能日記』には、女官の手紙も収められており、そこにも「孝明天皇は毒を献じられた」という「献毒」のうわさが書かれている。周囲の影響を考えて、孝明天皇の死が4日間、隠されて29日に公表されたことも、黒いうわさにつながったようだ。

•主犯として名前が挙がるのは「岩倉具視」

もし、暗殺されたとなれば、誰の仕業なのだろうか。後世の研究者により、主犯として名を挙げられているのが、公家の岩倉具視である。「王政復古の実現を強く願っていた岩倉にとって、親幕派の孝明天皇は大きな障害だったはず」とし、毒殺する動機が十分にあるというのだ。

当の岩倉はといえば、孝明天皇が崩御されたと聞いて、驚きを隠せなかった。国学者の坂本静衛に宛てた手紙で、「仰天恐愕、実に言うところに知らず」と嘆き、「無量の極に至れり」と無念さを吐露している。手紙には次のようにもあった。

「いささか方向を弁じ、少しく胸算を立て、追々（おいおい）投身尽力と存じ候処、悉皆画餅（しっかいがべい）となり」

岩倉は胸算用を立てていたが、孝明天皇の崩御によって、すべて画餅に帰したというのだ。いったい、どんな計画を立てていたのか。

「全国合同策密奏書」によると、岩倉は慶応2年に孝明天皇に対し、「実ニ朕ノ不徳、政令其当ヲ失ヒ、統御其宜ニ違ヒ候ヨリ致ス所」

との勅を出すべきだ、としている。つまり、国内の混乱をあえて「自らの不徳」として、責任を引き受けたうえで政治の一新を担うべしと、岩倉は孝明天皇のリーダーシップに期待していたのである。

それだけに、突然の死によほど失望したのだろう。岩倉はこの手紙で「木こりになって山に籠もる」とまで言っている。

もし、岩倉が孝明天皇暗殺の首謀者だったとすれば、この手紙はカモフラージュということになる。岩倉の深謀遠慮を思えば、ありうる話だが、同時にそんな岩倉が、天皇の発病という偶然に頼って、重大な暗殺を行うであろうか。また、孝明天皇を計画通りに亡き者にしたということならば、その後は岩倉が朝廷改革を主導したはずである。しかし、実際には、朝廷には人材が枯渇しており、また薩摩藩も倒幕に踏み切るような状態ではまだなかった。

では、孝明天皇亡き後に、朝議を思いのままにしたのは誰だったのか。それは、ほかならぬ徳川慶喜であった。孝明天皇の崩御によって、徳川慶喜は最大の後ろ盾をなくしたとされている。そのこともまた「倒幕派が孝明天皇を暗殺した」といううわさに真実味を与えてきた。

出典：真山 知幸（まやま ともゆき）Tomoyuki Mayama 氏の HP より

著述家 1979 年、兵庫県生まれ。2002 年、同志社大学法学部法律学科卒業。上京後、業界誌出版社の編集長を経て、2020 年独立。偉人や歴史、名言などをテーマに執筆活動を行う。『ざんねんな偉人伝』シリーズ、『偉人名言迷言事典』など著作 40 冊以上。名古屋外国語大学現代国際学特殊講義（現・グローバルキャリア講義）、宮崎大学公開講座などでの講師活動やメディア出演も行う。最新刊は『泣ける日本史』『天才を育てた親はどんな言葉をかけていたか？』。掲載以上。

上記したように 幕末、孝明天皇が暗殺され、田布施村（当時）出身の奇兵隊士・大室寅之祐（おおむろ・とらのすけ）なる人物が"替え玉"として明治天皇に即位した。と云われる。

孝明天皇暗殺は長州藩の影響力を未来永劫、保持することが目的だった（公武合体派の孝明天皇は長州閥を快く思っていなかったとされる）。

大室寅之祐が天皇に即位した結果、田布施出身者が日本を動かすようになったというストーリーだ。

近代日本の起源たる明治維新に、隠蔽されたドラマがあるとの主張は、他にもさまざまな物語を生み出していきます。

明治以降、国家権力はロスチャイルド家をはじめとするユダヤ金融資本とも結託し、田布施人脈を駆使しながら日本の針路をコントロールした。要するに「田布施マフィア」による日本支配。

しかも田布施出身者の多くは朝鮮半島にルーツを持つ人間であるとして、さらに話は面妖な趣を放っていくのである。

解説：ロスチャイルド家はしばしば陰謀論の対象となっており、その多くは反ユダヤ主義に由来している。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

ちなみに明治天皇の”替え玉”説の鹿島昇は本業が弁護士、鬼塚英昭は竹細工職人の傍ら近現代史の研究に取り組んだノンフィクション作家だ。ともに在野の歴史家として一部に根強いファンを持つ。鹿島は01年に、鬼塚は16年に、それぞれ鬼籍に入っている。

なお、ふたりの著作に「田布施システム」なる文言は一切使われていない。

これは両書に影響を受けたネットユーザーによる造語である。

引用、援用、コピーが重ねられ、いまでは原典を離れて「原発利権」や「TPP」までもが田布施システムの落とし子に位置づけられるようになっている。

いわゆる"トンデモ論"の類として一蹴したくもなるのですが、流布される陰謀論がときにそれなりの説得力を持ってしまうのは、随所に否定できない「事実」をちりばめることで、全体を「真実」に底上げしているからでもあります。

解説：鬼塚 英昭（おにつか ひであき、1938年 - 2016年1月25日）は日本の作家、竹細工職人、郷土史家。家業の傍ら、自費出版で歴史書などの執筆を始める。菊タブーや国際金融、国際情勢分野を執筆し、タブーを恐れないノンフィクション作家として知られる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

次に「日本のいちばん醜い日」から「心に青雲」より引用する。

鬼塚英昭氏の『日本のいちばん醜い日』（成甲書房）を読むと、日本国家の真相は、明治維新で長州藩田布施一味に国家を乗っ取られた。ということになる。

長州藩の田布施一味とは、山口県熊毛郡出身の政治家らのことである。熊毛郡の田布施町を中心にしている。ここは光市と柳井市に挟まれた寒村だった。



大室寅之祐＝明治天皇、伊藤博文、木戸幸一、宮本顕治、河上肇、難波八助、松岡洋右、安倍源基（終戦時の内務大臣）、賀屋興宣などである。むろん、岸信介、佐藤栄作、安倍晋三は、この田布施一味の末裔である。

小泉前首相の父・純也氏は、鹿児島県の田布施（現在は加世田市金峰町）出身の朝鮮人である。鹿児島県の田布施も山口県の田布施と同じ、朝鮮人部落である。

小泉純也氏は上京して小泉又次郎というヤクザ（刺青大臣と言われた）の婿養子となって「小泉姓」を名乗り、日本国籍を取得したとされます。小泉の次に安倍政権、そのいずれもが朝鮮人部落だった田布施の出身であることが偶然であるわけではありません。

・熊毛郡と田布施町は鹿児島県にも存在した。

① まずは、山口県熊毛郡と田布施町を見ますと。山口県熊毛郡田布施町は 2010 年 8 月 1 日現在で人口僅か 16,044 人の寒村でもとは同じ熊毛郡東荷村であった光市と柳井市に囲まれて、北朝鮮の被差別部落といわれている。

田布施町出身有名人、山口県出身の人物一覧

大室寅之祐＝明治天皇

熊毛郡、田布施町麻郷、南朝の末裔というより北朝鮮被差別部落の出で、後の明治天皇。橋本龍太郎氏の祖母大室ヨネ（米）の父、大室庄吉の兄は大室寅之祐（東京明治天皇）

伊藤博文（林家） 熊毛郡東東荷村（光市東荷字野尻） 生まれ

6 歳まで過ごした家は田布施町に残り、大室家とは隣接地にある。

（吉田松陰の命を受けた桂小五郎（木戸孝允）と伊藤博文が大室某を養育していた）

難波八助、宮本顕治（日本共産党）は伊藤家の一族で、木戸幸一も系図の中に入り、京都大学教授でマルクス主義を木戸幸一、近衛文麿に教えた、河上肇（玖珂郡岩国町）も一族。

岸 信介 熊毛郡田布施町

大室寅之助の生家の近くに岸信介一族の生家がある。

（この地から代議士の国光五郎、難波作之助が出ている。）、

松岡洋右（元外相）は岸の一族である。

佐藤 栄作 熊毛郡田布施町、岸、安倍とは同族。

吉田茂（高知出身、横浜、吉田家に養子）にも縁戚関係がある。

安倍晋三（本籍地：山口県大津郡で現在の長門市、生まれは東京、新宿）

その父（岸信介の娘婿）晋太郎は朝鮮人で、統一教会に縁が深い。

安倍源基 熊毛郡曾根村（平生町）

終戦内閣の最後の内務大臣 大室寅之助の生家の近くにある。

宮本顕治 山口県光市（旧熊毛郡東荷村）伊藤博文の一族

② 鹿児島、熊毛郡と田布施町

鹿児島県熊毛郡は屋久島、種子島を含む。県南部にあった田布施町(現在の加世田市金峰町)はやはり被差別部落である。

小泉前首相の父・純也氏は鹿児島の田布施朝鮮人部落出身の朝鮮人である。後に、ヤクザ(稲川会)の婿養子となり、小泉姓を名乗る。

東郷茂徳 終戦時の外相で、本名、朴茂徳、朝鮮人部落の出身 (朝鮮人陶工の子孫、秀吉の朝鮮役の際、島津氏が連れて帰った陶工の一族、島津家では士族身分)、4歳時、東郷家(平八郎家ではない)に養子、

山口県熊毛郡田布施町であり、鹿児島県の田布施町も同様。
鬼塚氏が指摘しているのは、終戦時の内閣では大分県出身者が多いという。

阿南惟幾陸相(竹田市出身)、梅津美治郎陸軍参謀長(中津市出身)、豊田副武海軍軍令部長(杵築市出身)、また重光葵(東久邇宮内閣外相)は国東半島出身。大分県は瀬戸内海で田布施とつながっている。)

東郷 茂徳(とうごう しげのり、旧字体：東^モ茂^モ、1882年(明治15年)12月10日 - 1950年(昭和25年)7月23日)は日本の外交官、政治家。太平洋戦争開戦時及び終戦時の日本の外務大臣。朝鮮人陶工の子孫。

欧亜局長や駐ドイツ大使及び駐ソ連大使を歴任、東條内閣で外務大臣兼拓務大臣として入閣して日米交渉にあたるが、日米開戦を回避できなかった。鈴木貫太郎内閣で外務大臣兼大東亜大臣として入閣、終戦工作に尽力した。にもかかわらず戦後、開戦時の外相だったがために戦争責任を問われ、A級戦犯として極東国際軍事裁判で禁錮20年の判決を受け、巣鴨拘置所に服役中に病没した。

*鹿児島出身の東郷茂徳は豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に島津義弘の帰国に同行した朝鮮人陶工の子孫である。陶工達が集められた「苗代川」(現在の日置市東市来町美山)と呼ばれる地域では幕末まで朝鮮語が使われていたという。薩摩藩は苗代川衆を保護、優遇し藩内の身分は士分とした。父・朴寿勝は優れた陶工で、横浜や神戸にも積極的に出かけ、外国人にも焼き物売り込む実業家としての手腕にも長けていた。東郷家に養子、入籍、

旧制の第七高等学校造士館に進学。ちなみに同じ鈴木内閣の農相だった石黒忠篤とは高校時代以来の親友だった。そこに赴任していた片山正雄に師事したことがきっかけで、東郷はドイツ文学への理解を深めていった。その後、東郷は東京帝国大学文科大学独逸文学科に進学し、また東郷の師の片山も学習院大学教授として赴任。片山は、自らの師でドイツ文学者の登張信一郎を東郷に紹介し、三人で「三代会」を結成した。

*ウキペディアに詳細を極めた、東郷の伝記がある、秀才であり、学友というか、仲間に

は、階層的に皇族、貴族層との縁が深い、と見るべきであろう、東条と並んで昭和天皇の信頼は厚かった、日本と朝鮮半島の絆は極めて深い、上記の記述には朝鮮蔑視のニュアンスがあるが、ボクにはない、旧山口高校時代、親友に、北朝鮮の友人もいた、そういえば、金という姓で、金日成氏に似ているようにオモイ出す。（～解説終わり）

ユダヤ国際金融権力は、こういう人間を使って、日本乗っ取りを支援しながら、連中の弱みを握って、思い通りに支配してきたのだ。

ユダヤは徹底的に日本の事情＝弱点を探って研究しつくしている。

例えばとして、鬼塚氏は幕末に英国公使パークスは、外交官アーネスト・サトウを使って日本の被差別部落を調査させている。

『日本のいちばん醜い日』に益田勝実氏の文章が引用されている。次頁の写真（『終末から』 1974年 8月号 特別企画 天皇の国家 筑摩書房 87頁）

「天皇様をお作り申したのはわれわれだとは、明治以前に生まれた長州の老人たちによく聞かされたことだったが、近代天皇制以前には、京都に天皇家はあったが、天皇の国家はなかった。」

尊皇派が考えていた天皇の国家の考えは思想として獲得されたもので、現実には京都にいる天皇という実在の人物に合わせて作られたものではなかった。

かれらが求めている天皇と現実の天皇と、いくらか融和出来るうちはよいとして、その矛盾が激化すると、……激化すると、天皇を取り換えてしまうほかなくなる。

わが家に空襲で焼けるまであった孝明天皇使用の皿は、おそらくまだ長州と天皇の間がうまくいっていた、蜜月時代にもたらされたものだろう。

奇兵隊拳兵の翌年、1866年(慶応2)の暮れには、孝明天皇は謀殺されてしまった。もちろん、仕組んだのは江戸幕府ではない。

志士側で、天皇が倒幕の障害になりはじめたからである。

今日では、このことはもう公々然の秘密となっている。(益田勝実『天皇史の一面』より)」

益田勝実は長州の国家老一族である。

だから田布施の住民を虐げた側というか、支配した（あるいは敵対した）側である。

その子孫である益田勝実が、「てんのうはん」、つまり、山口県熊毛郡田布施町麻郷（おごう）に生まれ、孝明天皇の長子睦仁の替え玉となり、明治天皇となった真相を突いたのだ。

解説：益田 勝実（ますだ かつみ、男性、1923年〈大正12年〉6月29日 - 2010年〈平成22年〉2月6日）は、日本の国文学者。古代文学専攻。元・法政大学文学部教授。

いまこの机上に、一八六五年（慶応元）の「長防臣民會議書」がある。各人一部を懷中して決死快戦せよというので、第二次長州征伐軍を四境に迎え撃つために、長防二州臣民會議局が三十六万部を印刷配布した決意表明書。十二葉の木版小冊子である。十一月に印行されたのに、四月の慶応改元を受け容れず、元治二年とある。その文面の尊皇論と比べて、実際の殿様の湯呑みと禁裡様の皿の比重は違う。タテマエはタテマエ、ホンネはホンネ。いまから造り出そうとする天皇親政は、まだ願望でしかない。

前年、蛤御門の変で敗れ、第一次長州征伐に屈した長州は、益田弾正・福原越後・国司信濃の三家老の首を差し出して、和を乞うた。益田弾正の首は一族のわたしの曾祖父が斬った。そして、この年正月、高杉晋作の奇兵隊が長州内部で挙兵。藩論統一、抗幕決戦へ踏み出した。高杉は直接長州本藩内で挙兵せず、本藩とは清水藩・豊浦藩という二支藩領を隔てた、飛地の馬関（下関）の、伊崎の会所襲撃を手はじめにした。防備が手薄だからだ。豊浦藩の長府功山寺から本藩領の馬関へ、農工商出身者を混合編成した新しいタイプの軍隊を進撃させたが、その時、みずから伊勢音頭を唄い、そのリズムで繰り出したと聞いている。あとでもう一度触れることにしたいが、伊勢への抜け参り、お蔭参りや、天照皇大神のお札が降るええじゃないかなどと、この革命軍蜂起とに一貫しているものは、伊勢信仰的色彩である。天皇制の国家を生み出す

幕末の動きの中で、伊勢信仰の役割は非常に大きい。天皇と伊勢とがねじり合わされて維新へのエネルギーとなるので、その片方を落としては片手落ちにならないだろうか。伊勢音頭の陽気なしらべが、最初の軍歌であった。

天皇様をお作り申したのはわれわれだとは、明治以前に生まれた長州の老人たちによく聞かされたことだったが、近代天皇制以前には、京都に天皇家はあったが、天皇の国家はなかった。尊皇派が考えていた天皇の国家の考えは思想として獲得されたもので、現実に京都にいる天皇という実在の人物に合わせて作られたものではなかった。かれらが求めている天皇と現実の天皇と、いくらか融和出来るうちはよいとして、その矛盾が激化すると、……激化すると、天皇を取り換えてしまふはなくなる。

わが家に空襲で焼けるまであった孝明天皇使用の皿は、おそらくまだ長州と天皇との間がうまくいっていた、蜜月時代にもたらされたものだろう。奇兵隊挙兵の翌年、一八六六年（慶応二）の暮れには、孝明天皇は、謀殺されてしまった。もちろん、仕組んだのは江戸幕府ではない。志士側で、天皇が倒幕の障害になりはじめたからである。今日では、このことはもう公々然の秘密となっている。

天皇制を悠久の昔からのものと考えたことは出来ない。天皇家と天皇制はひとつにして見るべきではなからう。天皇制は近代百年の政治的創作で、新しいわれわれと同時代のもの

また、『終末から』 1974年 8月号 特別企画 天皇の国家 益田勝実 「天皇史の一面」より 87頁－88頁）には、次のように書いてあった。

「天皇制を悠久の昔からのものと考えすることはできない。天皇家と天皇制はひとつにして見るべきではなかろう。」

「天皇制は近代百年の政治的創作で、新しいわれわれと同時代のものである。」

である。戦後、ある日、総理大臣吉田茂が、突如昔のように天皇に対して臣茂と言いはじめ、人びとを驚かしたが、昭和のはじめ、わたしの子どもの頃には、昼間の銭湯には、伊藤博文がはじめて臣博文とやらかした時のことを、覚えている老人たちが集まっていた。禁裡様から天子様、天皇陛下へ移り変わったことをかれらは知っていて、天皇ファンが多かったが、大した出世をしたものよ、と感心されてもいた。一代の成り上り者明治天皇を偉いとほめ、息子の大正天皇の精神異常のエピソードをさまざまに公言する老人たちの寄合は、数年後にはもう銭湯からも姿を消した。安政・万延・文久生まれが急速にいなくなったからである。

「わたしの子どもの頃には、昼間の銭湯には伊藤博文がはじめて臣博文とやらかした時のことを覚えている老人たちが集まっていた。」

「一代の成り上がり者明治天皇を偉いとほめ、息子の大正天皇の精神異常のエピソードをさまざまに公言する老人たちの寄合は、もう数年後には銭湯からも姿を消した。安政・万延・文久生まれが急速にいなくなったからである。」

益田勝実が子供だった頃、現在の床屋政治談義のように

銭湯では、孝明天皇謀殺、明治成り上がり天皇の話が安政・万延・文久生まれの老人たちは話していたのだ。

湯船の中のひそひそ話には、真実のひとかけらがあるのかも知れない。湯にどっぷりとつかり、やがてほろ酔いのように上機嫌になると、人は黙ってはいられず真実を語りたくなるのだな。

長州で幕末に生きた人々の記憶の中では、強弱の差はあれ、ここに記されたような機会あるごとにつぶやいていたようだ。

これは、言えないことを言う、今のSNSで「ツイート」する、「ツイッター」と同じ機能だった。銭湯の風の便り 恐るべし。

鬼塚英昭氏の『日本のいちばん醜い日』では、「大室寅之助は田布施の生まれ、伊藤博文(林家が伊藤家の本家)と「虎ノ門事件」を起こした難波八助は一族である。
また宮本顕治(日本共産党)も一族。
そして、木戸幸一も系図に入ってくる。
京都大学教授でマルクス主義を木戸幸一、近衛文麿に教えた河上肇も一族である。

解説：虎ノ門事件（とらのもんじけん）は、1923年（大正12年）12月27日に、東京都東京市麹町区虎ノ門外で、皇太子・摂政宮裕仁親王（後の昭和天皇）が無政府主義者の難波大助から狙撃を受けた暗殺未遂事件。出典: フリー百科事典『ウィキペディア』

そして、大室寅之助の生家の近くに岸信介一族の生家もある。
この地から代議士の国光五郎、難波作之助が出ている。
また、元外相松岡洋右も岸信介の一族である。
あの終戦内閣の最後の内務大臣安倍源基も大室寅之助の生家の近くである。

大室寅之助が南朝の末裔であるという説があるが、確たる証拠は私の調べた限りではな
に一つない。むしろ、北朝鮮系の被差別部落民ではないのか、と思っている。」（「日本
のいちばん醜い日」より）

明治維新から日本の国家中枢に君臨する一族には、このような真相があるのである。

鬼塚氏も書いているが、瀬戸内海の沿岸や島々には被差別部落が多い。
そこからアメリカや中南米に移民として行かされた人も多い。
「家船漁民」といって、船上で暮らす人々も瀬戸内地方には多かった。

解説：家船（えぶね）とは、近世から近代の日本に存在した一群の漂流漁民の総称である。



古代海部の系統をひく水軍の末裔とも言われているが、詳細は不明である。数艘から数十艘にて集団を形成（「~家船」と称する）して、本拠地を中心として周辺海域を移動しながら一年を送り、潜水や鉾を使った漁で魚介類や鮑などを採集する漁業を営み、1週間から10日おきに近くの港で物々交換に近い交易をしていた。瀬戸内海の事例では、家船が三津の朝市で漁獲品を水揚げする姿は戦後もしばらくは見られていた。

別府温泉では、持ち舟で寝泊まりしながら浜脇温泉や別府温泉に通う湯治の習慣が古くから見られ、戦後しばらくまでは続いていた。春には波止場に係留される舟は100艘近くへのぼり、湯治舟とよばれて季語にもなるほどの別府の春の風物詩となっていた。

家船の根拠地は、西九州及び瀬戸内海沿岸に存在した。西九州では西彼杵半島と五島列島に多くが根拠を持ち、女性は抜歯の風習があったとされている。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

いずれも彼らはマレーシア方面から漂着した平家系の民であろう。と鬼塚氏は云う。
源平の戦いがあった平安末期、貴族となって権勢を誇った平清盛一族は、（八切止夫によれば）マレーシア方面から比較的新しく紀伊半島に“鉄器を持って”漂着した部族であった。

解説：八切止夫（やぎり とめお、1914 年 12 月 22 日? [1] - 1987 年 4 月 28 日）は、日本の小説家。日本シェル出版代表。戦前から戦後まもなくにかけては耶止説夫のペンネームで冒険小説や推理小説を書き、1960 年代後半に八切止夫のペンネームでは歴史小説家となる。「八切史観」と呼ばれる独自の歴史観を展開した。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

その彼ら貴族化した平家を、それ以前に土着していた北条氏らの平家一族が源氏（頼朝や義経）という馬を扱える部族を使って日本国内から放逐したのがあの源平の戦いである。

だから清盛一族側の貴族化した平家は、海洋民族だったから騎馬戦は得意ではなく、義経に追われると瀬戸内海を下関（壇ノ浦）まで逃げた。

当然瀬戸内海には海洋民族である土着の平家系のいわば海賊もいたのだが、彼らは北条側の平家に就いて義経に協力したため、貴族化した平家らは撤退せざるを得なかった。だから源平の戦いとは、本質的に“新来の平家”と“旧来土着の平家”との内ゲバであったといえる。それで勝った側の北条平家は、源氏系統＝北朝鮮系を皆殺しにし、生き残った源氏系部族人間は別所などと言われる被差別部落に追い込んだ。

おそらく瀬戸内一帯に土着していた源氏系の部族も別所などの被差別部落に押し込めて、まともな活動ができぬように圧迫したと思われる。

その一つが山口県の熊毛郡なのであろうし、遠く鹿児島にも同様の田布施として源氏系部落を作ったのではないかと。田布施という所は「正直いって、住むのに悪条件だらけの土地であった」と鬼塚氏は書いている。

あるいは「やたらと寺の多さに気づく」とも書いている。
権力者が寺院を使って被差別部落を抑えつけたのだらうし、本来は白山信仰を持ち仏教には転向しない源氏系（北朝鮮系）を強引に仏教徒にしようとした痕が、田布施の寺の群れなのだろう。

鬼塚氏は、田布施出身の大室寅之祐の家が漁業を営んでいないことを指摘している。
ということは大室家が平家ではないことを意味している。
平家系の庶民の職業は、漁民か百姓と決まっていたからだ。
鬼塚氏は大室寅之祐が北朝鮮系の被差別部落民ではないかと言っている。

解説：別所（べっしょ）：大和王権による俘囚の移配地とする菊池山哉さんさいの地名解釈。→別所(地名解釈)：別所（べっしょ）とは、歴史家菊池山哉によれば大和王権（律令政府）が蝦夷（えみし）を征服した際の戦争捕虜（俘囚）を古郷に3〜4戸ずつ配置した集住地域を言う。

学史

菊池山哉の旧説であり、いまだ歴史学上の完全な定説となっていない。本村の新田や枝郷とする解釈もある。しかし近年、柴田弘武によって本格的な再検討がなされつつある。柴田は更に約300ヶ所の別所を析出し、菊池の調査分と合わせて計約500ヶ所の別所を検討した結果、「菊池の説は動かし難いと思う」（『鉄と俘囚の古代史』）と述べている。

菊池山哉は「古く音読の地名は、官符に関係あるものに限るようです」とし、音読の「別所」（ベッショ）を官符関係のものと推定している。『延喜式』には「俘囚料」の「計帳」があり、811年（弘仁2）3月に「始めて諸国をして俘囚計帳を進めしむ」とある。菊池の説はこの「俘囚」の移配地を「別所」と考えるものである。「移配」は菊池の造語。

解説：俘囚（ふしゅう）とは、奈良時代から平安時代、当時の東北地方には、まだ朝廷の支配下に入っていない蝦夷（えぞ）と呼ばれる人々が多く残っており、独自の生活や文化を続けていました。朝廷が東北進出を進める過程で捕虜となった蝦夷は「俘囚（ふしゅう）」と呼ばれ、関東地方にも数多くの俘囚が移住させられたといわれています。9世紀の関東では、上総（かずさ）、下総（しもうさ）を中心に、この俘囚の反乱が相次ぎました。出典：北総中央農業水利事業所 hp

解説：俘囚（ふしゅう）とは、陸奥・出羽の蝦夷のうち、蝦夷征伐などの後、朝廷の支配に属するようになった者を指す。夷俘とも呼ばれた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

解説：菊池 山哉（きくち さんさい、1890年10月29日 - 1966年11月17日）は、東京府出身の郷土史家、土木技師、政治家（東京市会議員）。本名菊池武治。

1962年6月 - 『日本上古史研究』6巻6号に「別所とエトリの問題」を発表。

1966年 - 9月、『天ノ朝と蝦夷』、11月『別所と特殊部落の研究』を出版。..等

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

柴田 弘武（しばた ひろたけ、1932年 - ）は古代史研究家。

神奈川県藤沢市生まれ。1955年、早稲田大学教育学部卒業。東京都の中学校や東京都立荒川工業高等学校（定時制）の社会科教員を歴任し、1992年に退職。えみし学会会長。郷土教育全国協議会・史遊会・たたら研究会・日本地名研究所・日本ペンクラブなどの各会員。2001年、北野道彦賞受賞。出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

「週刊朝日」06年10月6日号に掲載された「家政婦は見た～安倍晋三研究」で、安倍家の家政婦の証言として、安倍晋三の父・晋太郎は、日頃から「自分は朝鮮だ」が口癖で、亡くなったときの遺骨を見ても韓国系の体型だったと言っている。

安倍日本首相の父親「私は朝鮮人だ」 中央日報 2006.09.30 14:19 によると

「私は朝鮮（人）だ」――。

日本の安倍晋三新首相の父親、安倍晋太郎（1991年死亡）元外相が普段からこのように言ったと、世界（セゲ）日報が日本の「週刊朝日」を引用して報道した。

この週刊誌は10月6日付カバーストーリーで「安倍晋三研究―家政婦が見た安倍、岸3代」という見出しで安倍首相家門の内側を特集報道した。

岸と安倍の家門で家政婦として40年を過ごした久保ウメさん（80）は、週間朝日とのインタビューで安倍首相の父親、安倍元外相が告白した家庭の内部を比較的詳しく伝えた。

久保さんは「パパ（安倍元外相）は誰にも言えないことを私には言ってくれた」とし「（安倍元外相死去直後）入棺のとき、この人の骨格を見ながら本当に日本人の物ではないと思った」と説明した。それとともに「頭からつま先までまっすぐに横になっていたが、完全に韓国人の体形だ。

（安倍元外相）自らも『私は朝鮮（人）だ。朝鮮』と言っていたが、この人は朝鮮人だと思った」と回顧した。また「（政治家として周辺に）人気が高く、よってもう少し元気に活動する時間があれば、北朝鮮問題も解決したと思う。安倍元外相の死は国の損害だった」と惜しんだ。

この雑誌は安倍元外相は生前に安倍家の起源は10世紀くらいまで韓半島北で中国大陆にかけて存在した渤海（パルヘ）国に始まったという考えを持っていたが、日本での安倍家の起源は明らかではないと報道した。安倍家の起源について久保さんは「安倍家の本流は青森県だ。安倍元外相が朝鮮だと言ったが、これは今の北朝鮮ではなく、その北と吉林省の下側にあった渤海」と「11世紀平安時代の武将だった安倍が今の安倍家の祖先と一致する」と説明した。

安倍晋三首相の母方の父である岸信介元首相も安倍首相を非常に惜しんだと付け加えた。久保さんは安倍首相が生まれる前から東京の岸元首相の自宅で家政婦として過ごし、今はそこを出て東京に住んでいる。

1924年生まれ of 安倍元外相は毎日新聞記者時代の1956年当時、外相だった岸元首相の個人秘書となり、その娘の洋子さんと結婚、1991年5月、首相（自民党総裁）を目前にして病気で死去している。

～以上「中央日報」記事を掲載。

田布施（または熊毛郡）出身の一族郎党が国の権力を握っていることに変わりはないようだ。安倍晋三は統一教会と縁が深いのだからまさに朝鮮半島勢力である。
明治天皇とその取り巻きが、なにせ田布施出身の朝鮮人系統なのだから、現実の政治はその流れに沿うのである。

終戦時（と開戦時）に外相だった東郷茂徳は、鹿児島県の朝鮮人部落出身である。本名は朴茂徳である。鹿児島県ではあるが、田布施と同じ出自なのだ。だから昭和天皇は終戦の大事な時期に、東郷茂徳を起用した。

東郷に外交ルートを使った終戦工作、すなわち天皇の身の保全と、天皇家の蓄財の隠蔽を命じたのである。東郷はA級戦犯となり、服役中に病没しているが、おそらく真相を知る人間だから消されたのであろう。

先に紹介したが、終戦時の安倍源基内務大臣は熊毛郡の出身で、安倍晋太郎・晋三との結びつきは不明らしい（家紋は同じ）が、大室家とは親族だという。

安倍源基は周知のように、戦前、警察権力を一手に握った男で警視総監をやり、特高警察で君臨した。言ってみればゲシュタポかKGBの親分のようなものだ。権力者にとっては重要なポジションである。これもまた朝鮮人系が握っていたのだ。

さらに。鬼塚氏が指摘しているのは、終戦時の内閣では大分県出身者が多いという。阿南惟幾陸相（竹田市出身）、梅津美治郎陸軍参謀長（中津市出身）、豊田副武海軍軍令部長（杵築市出身）、また重光葵（東久邇宮内閣外相）は国東半島出身。

大分県は瀬戸内海で田布施とつながっている。

この辺りは、先の家船漁民の活動範囲であって、その交流のなかで婚姻関係が結ばれていたはずなのである。つまり昭和天皇は同じ朝鮮人関係者で、敗戦処理を行なったのであった。

こうして見てくると、どうして明治権力が朝鮮半島に侵出したか、しかも朝鮮半島をいわゆる植民地化せずに“内地化”して、インフラ整備を徹底的に施し、“内鮮一致”を押し進めたかがわかる。

つまり日本が稼いだ富を祖国・朝鮮半島にせっせと注入したのだ。
また日本国内に在日朝鮮人を大量に残し、厚遇してきたかもわかる。
権力者にとっては同族だからだ。

わざと（ユダヤの指示で）日本国内に火種を残したとも言えるだろう。北による拉致だってわかったものではない。

総連や北の工作員だけでなく、こうした闇のルートが拉致に介在した可能性もあるし、現在も小泉や安倍という朝鮮系の人間が首相をやっているのだから、闇は深まるばかりだ。

さらに鬼塚氏は興味深いことを書いている。
明治天皇の生母とされる中山慶子の墓が東京・文京区の豊島ヶ岡墓所にある。

ところがこの明治天皇の生母の墓を、明治天皇を始め皇族まで誰も参拝に行っていないのだという。現在の中山家当主は、鬼塚氏の問い合わせに「生母に関しては箝口令(かんこうれい)がしかれていて、一切答えられない」と言ったそうだ。

これはつまり、明治帝がやはり孝明天皇と中山慶子の子ではないことの証明である。
生前に明治天皇は生母に会ってさえいない。「この人間関係の冷たさが一たとえ生母でなくても会えばいいではないかー日本の暗黒をより深くし、日本を太平洋戦争へと突き進ませたと思えてならなかった」と鬼塚氏は書いた。

そのとおりである。昭和天皇も今上天皇もその他皇族も、孝明天皇の子孫と思うのなら、中山慶子の墓を粗末にするはずがないのだ。

大正天皇はどうやら大室寅之祐の子らしいが、昭和天皇は大正天皇の子ではないからである。西園寺八郎と貞明皇后のあいだの子とされる。

その事情を『日本のいちばん醜い日』で詳述している。
西園寺八郎は毛利家から公家の西園寺公望（元老でありフリーメースン）の養子になった人物で、宮中深く浸透した。大正天皇とは学習院で同級生だった。
その息子公一（きんかず）は、 коммуニストでゾルゲ事件に連座したが、親（八郎）のよしみで釈放されている。

明治天皇も伊藤博文も、大正天皇に子どもができないことを知っていたので、西園寺八郎を貞明皇后に近づけたとされる。それを鬼塚氏は詳細に検証していく。
そして、大正天皇の子4人（昭和天皇、秩父宮、高松宮、三笠宮）はいずれも父親は別とされる。みんな顔が似ていない。（浩宮と秋篠宮もまったく似ていないが…）

鬼塚氏は、秩父宮が2・26事件の策を練り、終戦時の8・15宮城事件は三笠宮が策を練ったのだと断言している。どちらのクーデターもやらせた。と書いている。

貞明皇后（節子＊さだこ）はしきりに世継ぎに介入したとされる。
秩父宮を溺愛し、裕仁より秩父宮を天皇にしようと暗躍した。



貞明皇后は長州が嫌いだったので、薩摩系の良子を昭和天皇の嫁にしようとして「宮中某重大事件」を起こしている。貞明皇后は五摂家のひとつ九条家から嫁したとされるがウソで、武蔵野のある大農家の娘だったという説と、彼女の本名は朱貞明だという説がある。中国か朝鮮であろう。

朱貞明は、明治政府が徳川幕府から接收した皇居（千代田城）を、高級遊郭にしたのだが、そこに召し出された女性だという。

千代田城は「千代田遊郭」と呼ばれ、伊藤博文や大室寅之祐らが、維新で職を失った旗本の娘から美女を選んで囲ったもので、天皇と重臣の遊び場だった。
朱貞明が長州の侍に騙されたかして千代田遊郭に入れられ、後に大正天皇の嫁にさせられたとするなら、長州嫌いになったわけもわかる。

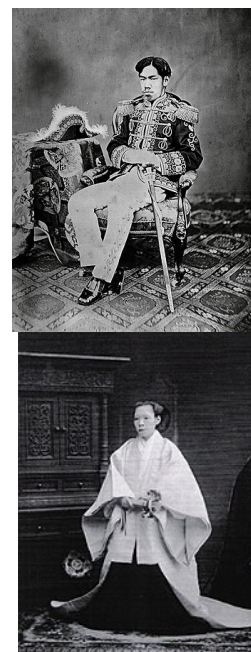
貞明皇后は秩父宮の妃を迎えるにあたっては、わざわざ朝敵とされた会津藩松平家から勢津子を選んで、長州への面当てをやった。（ちなみに勢津子のかかりつけの美容師が吉行あぐりである）この会津から皇室への婚姻で、会津の人は喜んだというが…。

今上天皇が堂々、天皇家の祖先は朝鮮から来たんだと記者会見で言って、驚かされたが、つまり今上天皇は、祖母の貞明皇后が朝鮮系であることを述べていたのだと思われる。

いずれにせよ、かように日本上層部は、民族的怨念と覇権を巡っての暗闘を続けているのであって、現在の自民党や民主党ら政党の争いとか、霞ヶ関の官僚の争いも、そうした背景を知らねば説明はできないものと思われる。

明治天皇についての謎がある

誕生 1852 年 11 月 3 日（嘉永 5 年 9 月 22 日）13 時頃
日本 山城国 平安京（現：京都）、中山忠能邸
崩御 1912 年（明治 45 年）7 月 30 日 午前 0 時 43 分（宝算 59）
日本 東京府東京市 明治宮殿
大喪儀 1912 年（大正元年）9 月 13 日 於帝国陸軍青山練兵場
陵所 伏見桃山陵
追号 明治天皇 1912 年（大正元年）8 月 27 日 追号勅定
諱 睦仁（むつひと）万延元年 9 月 28 日命名
称号 祐宮（さちのみや）
印 永
元服 1868 年 2 月 8 日 （慶応 4 年 1 月 15 日）
父親 孝明天皇
母親 中山慶子・明治天皇は、生前に生母と一度も会っていない。
皇后 昭憲皇太后（一条美子）1869 年 2 月 9 日 （明治元年 12 月 28 日）大婚
子女 一覽参照[下記]
皇居 京都御所 青山御所 東京城・皇城・宮城
栄典 大勲位



一覽[表示]

稚瑞照彦尊 稚高依姫尊 梅宮薫子内親王 建宮敬仁親王
大正天皇（第 123 代天皇）（明宮嘉仁親王）
滋宮韶子内親王 増宮章子内親王 久宮静子内親王 昭宮猷仁親王
常宮昌子内親王 周宮房子内親王 富美宮允子内親王 満宮輝仁親王
泰宮聡子内親王 貞宮多喜子内親王

Q：なぜ「昭憲皇后」でなく「昭憲皇太后」なのですか

A：明治神宮の回答

明治天皇さまのお后（きさき）さまなら「皇太后」でなく「皇后」とお呼びするのが正しいのではないかという考え方もございますが、実はこのいきさつについてはたいへん難しい問題があります。



昭憲さまは嘉永（かえい）3年（1850）4月17日（新暦5月28日）一条忠香（ただか）の三女として御誕生あそばされました。はじめ勝子（まさこ）、富貴君（ふきぎみ）、寿栄君（すえぎみ）などと呼ばれ、入内（じゅだい）※1後、美子（はるこ）と称されました。明治元年12月28日御入内まもなく皇后の宣下（せんげ）※2があり明治天皇さまのお后となられました。大正3年4月11日に崩御※3されています。同年5月9日に宮内省告示第九号により「昭憲皇太后」のご追号が仰せ出されたのです。そして大正4年5月1日には明治神宮の御祭神として内務省告示第三十号により祭神「明治天皇・昭憲皇太后」の祭神名が発表されたのです。

ところがこの御祭神名について有識者の中から疑問の声が出てきたのです。

1. 両陛下を相並んでお呼びする場合、「天皇皇后両陛下」と称するのであって「天皇皇太后両陛下」とは称さないこと。「皇太后」は天皇の母親の意味であること。よって明治神宮の御祭神は御夫婦であられるから「明治天皇・昭憲皇后」が正しい。
2. 亡くなった方にはご生前の時の最高の位でお呼びすることが常例。「皇太后」の称号は「皇后」より下の位になる。だから昭憲さまは生前「皇后」でしたので、「昭憲皇后」と称するのが正しいことになる。

Q：では、なぜこのような称号をつけてしまったのでしょうか。

A：昭憲さまが崩御されたのは大正3年です。すでに明治天皇は崩御され（明治45年7月30日）、大正天皇が踐祚（せんそ）※4されたので皇太后となられたのです。崩御された時はすでに皇太后であらせられたのですが、当時の宮内大臣が昭憲さまのご追号を皇后に改めないで、「昭憲皇太后」としてそのまま大正天皇に上奏し御裁可※5となったのです。

はじめにこの上奏の時点で間違いが生じました。そしてそのまま御祭神名も「昭憲皇太后」としてしまったのです。

このような経緯から明治神宮の御祭神名としてそぐわぬことから「昭憲皇太后」を「昭憲皇后」と改めるよう、御鎮座寸前の大正9年8月9日（明治神宮の御鎮座は大正9年11月1日）明治神宮奉賛会会長徳川家達（いえさと）より宮内大臣宛へ建議が出されました。

しかし諸事の理由から御祭神名を改めることは出来ませんでした。

その理由として

1. 天皇より御裁可されたものはたとえ間違っているとしても変えられない。
2. すでに御神体に御祭神名がしるされていて、御鎮座の日までに新しく造り直すことが無理。

の二点があげられています。

時代が下って昭和38年12月10日、明年（昭和39年）の昭憲皇太后50年祭にあたり宮内庁へ「昭憲皇太后御追号御改定に関する懇願」が神宮より、また崇敬会会長高橋龍太郎より「昭憲皇太后御追号御改定につき御願」が提出され、続いて昭和42年12月26日に明年（昭和43年）明治維新百年にあたり再度「御祭神の御称号訂正につき懇願」、崇敬会会長足立正より「御祭神の御称号訂正につき再度の御願」が提出されました。しかし宮内庁の回答は改めないとのこと返事だったそうです。

御鎮座当時首相であった原敬は「他日、何かの機会及び形式において昭憲皇太后を神功皇后※6 檀林皇后※7などの前例によって、一般には昭憲皇后と称し奉りても違法ではないことの趣旨を明らかにしておくことが必要であろう。」と言っています。（『原敬日記』大正9年10月13日）

- ※1 入内（じゅだい） 中宮・皇后・女後などが正式に内裏に参入すること。
- ※2 宣下（せんげ） 天皇の命を伝える公文書を下すこと。
- ※3 崩御（ほうぎょ） 天皇・太皇太后・皇太后・皇后の死去をいう語。
- ※4 踐祚（せんそ） 皇嗣が天皇の位を受け継ぐこと。
- ※5 裁可（さいか）

1. 君主が臣下に奏する案文を親裁許可すること。
 2. 明治憲法下で、天皇が議会の協賛した法律案及び予算案を親しく裁量して、確定の力を付与した意思表示。その形式として御名を署し、御璽を押印した。勅裁。
- ※6 神功皇后 仲哀（ちゅうあい）天皇の皇后。新羅（しらぎ）を征して凱旋し、応神天皇を筑紫で出産した。
 - ※7 檀林皇后 嵯峨天皇の皇后。

011/11/1723:51:19

明治天皇替え玉説がありますが信憑性はどのくらいでしょうか。

「孝明天皇暗殺説」同様「明治天皇すり替え説」も学術的には否定されています。

「明治天皇すり替え説」の論拠は

- 明治天皇の幼少期と成人してからは体調、性格ともに全然違う(幼少期は病弱で神経質だったが成人期は身体頑強で剛胆な性格)事
- 明治44年、明治政府が「南朝の正統性」を認めた事ですが、いずれも論破されています。

まずは「幼少期と成人期の体調、性格が違う」点ですが、幼少期と成人期に体調や性格

が変わるのは良くある話で論拠にはなりません。又、明治天皇は神経質ながら人に会う事を好んだ人物と言われ、幼少期から側についていた中山忠能や二条斉敬はすり替えの事を否定しているし、明治天皇を幼少期から知る人ですり替えを肯定した人はいません。

「南朝の正統性」が認められたのは当時の政治家達の愛読書だった「神皇正統記」や「大平記」が「南朝正統説」を元に書かれていたからで、政府として認めない事には政治が立ち行かないと言う現実的な問題があったからです。

ちなみに良く「明治天皇が南朝の正統性を裁定された」と言われますが「南朝の正統性」について「明治天皇が裁定を下した」事はありません。あくまで「明治政府の見解」に過ぎないのです。

明治44年の「南朝の正統性認証」以降、「三浦天皇」や「大室天皇」等「南朝の正統」を名乗る「エセ天皇」が現れますが、彼らが出てくるのは「明治政府の発表後」で「にわか」の感は否めません。そもそも「三浦天皇」こと「三浦芳聖」は根拠も示さず「自らが言ってるだけ」で何の確証もありません。「大室天皇」こと「大室寅之祐」の話は寅之祐本人が言っている事ではなく孫の「大室近祐」が言っている話です。

信憑性としてはそれだけでも充分怪しいのですが、この「大室天皇」説を支持して論説を展開したのは「伊藤博文忍者説」の「トンデモ論者」鹿島昇と松重正。

鹿島と松重は説話の根拠として「大室寅之祐と坂本龍馬、西郷隆盛、木戸孝允ら幕末の英雄が写った集合写真」を公開していますが、この写真は「フルベッキが長崎で英語教師をしていた時に生徒と撮った写真」である事が判明して論説が完全に破綻しています。

解説：フルベッキ群像写真（フルベッキぐんぞうしゃしん）は、在米オランダ改革派教会



から派遣されたオランダ出身の宣教師グイド・フルベッキとその子と佐賀藩の藩校「致遠館」の学生・教師との計46名で写した集合写真の俗称である。

撮影時期は、明治元年（1868年）10月から11月と推定されている。「フルベッキ写真」、「フルベッキと塾生たち」とも呼ばれる。

2007/10/1322:41:26

明治天皇替え玉説について

其れは公式記録を丹念に拾えば判明する事です。裏も表もない事実。ただ裏から見たほうが一連の謎が解ける。つまり分かり易い。けれどもこれを言うのはタブーです。だから知っている人は誰も言わないだけ。孝明天皇暗殺は憶測ではなくて事実。彼の兄弟のうち、男6人が殺されて彼だけが残されたが、都合が悪いから結局殺された。

此れは仮説ではなくて元老院蔵の系図にもある実数。権力の集まるところはこうなる。時代の転換期は特に怪しいと見て良い。このため明治天皇に担がれた男は周防の部落民でした。

解説：仁孝天皇（にんこうてんのう）は、光格天皇の第4皇子。実母は勸修寺大納言経逸の女、勸修寺靖子（東京極院）。正妃は藤原繫子（新皇嘉門院）、繫子没後はその妹祺子（新朔平門院）。15人の子をもうけたが、そのうち12人が3歳までに亡くなった。

贈皇后：仁孝天皇（にんこうてんのう）

鷹司繫子（新皇嘉門院）（1798年 - 1823年） - 鷹司政熙女

第一皇子：安仁親王（1820年 - 1821年）

第一皇女：慈悲心院宮（1823年）

女御：鷹司祺子（新朔平門院）（1811年 - 1847年） - 鷹司政熙女、繫子妹

第四皇女：摩尼珠院宮（1829年 - 1831年）

典侍：正親町雅子（新待賢門院）（1803年 - 1856年） - 正親町実光女

第二皇子：鎔宮（1825年 - 1826年）

第四皇子：統仁親王（孝明天皇）（1831年 - 1866年）

第六皇子：節仁親王（第11代桂宮）（1833年 - 1836年）

第七皇女：恭宮（1837年 - 1838年）

典侍：甘露寺妍子（1806年 - 1851年） - 甘露寺国長女

第二皇女：成宮（1825年 - 1826年）

第三皇女：淑子内親王（第12代桂宮）（1829年 - 1881年）

第三皇子：三宮（1830年 - 1831年）

第五皇女：総宮（1832年 - 1833年）

第六皇女：経宮（1836年）

典侍：橋本経子（1826年 - 1865年） - 橋本実久女

第七皇子：胤宮（1844年 - 1845年）

第八皇女：親子内親王（皇女和宮）（1846年 - 1877年）

典侍：中山續子（1795年 - 1875年） - 中山愛親女

掌侍：今城嬉子（1809年 - 1875年） - 今城定成女

第五皇子：常寂光院宮（1832年）

猶子多数

貞教親王（伏見宮）・熾仁親王（有栖川宮）・朝彦親王（久邇宮）・彰仁親王（小松宮）・能久親王（北白川宮）

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

地名「別所（べっしょ）」

関東

茨城県龍ケ崎市別所町

埼玉県さいたま市南区别所

埼玉県さいたま市西区指扇領別所

埼玉県秩父市別所

埼玉県比企郡ときがわ町別所

千葉県印西市別所

東京都八王子市別所

神奈川県横浜市南区别所

神奈川県横浜市鶴見区别所

甲信越

新潟県糸魚川市別所

新潟県五泉市別所

新潟県上越市板倉区别所

長野県上田市別所温泉

北陸

富山県黒部市別所

石川県河北郡津幡町別所

近畿

滋賀県蒲生郡日野町別所

京都府相楽郡和束町別所

京都府舞鶴市別所

大阪府堺市南区别所

大阪府泉南市別所

大阪府松原市別所

兵庫県姫路市別所町別所

兵庫県三木市別所町

奈良県香芝市別所

和歌山県有田郡湯浅町別所

和歌山県海南市別所

和歌山県紀の川市別所

中国地方

鳥取県倉吉市別所

鳥取県東伯郡琴浦町別所

鳥取県東伯郡湯梨浜町別所

鳥取県日野郡日野町別所

鳥取県米子市別所

岡山県真庭市別所 → 関川村 (岡山県)参照

岡山県真庭市蒜山別所 → 中和村 (岡山県)参照
四国
徳島県美馬市脇町別所
高知県安芸郡安田町別所
九州
福岡県那珂川市別所